

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第21号



障害のある人もない人もともに生きる社会を目指して！

平成23年度「障害者週間」市民のつどい

平成23年11月26日(土) 与野本町コミュニティセンター



いつ聞いても、何度聞いても心をゆさぶられる子どもたち、若ものたちの音楽。今年のメンバーは全国大会にも出場した大宮南中学校吹奏楽部の43名でした。

写真上 すばらしかった大宮南中の演奏
右 作文を発表する松尾由賀子さん
小森谷魁人さん
左 コール・ダ・カーポのコーラス



式典

心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター表彰式

●ポスター

上落合小学校6年 竹内 文音さん

大宮東中学校1年 岩井 理奈さん

●作文

「おばあちゃんの気持ち」

上木崎小学校6年 小森谷魁人さん

「障害があるということ」

大谷口中学校2年 松尾由賀子さん

●第十一回全国障害者スポーツ大会おいでませ山口大会報告

基調講演

東日本大震災から9か月

障害者市民支援活動

と今後の課題

特定非営利活動法人
ゆめ風基金理事

八幡 隆司 氏

当事者参加の 地域防災訓練を

ばり研代表 伝田ひろみ

阪神淡路大震災を体験し、東日本大震災直後から障害者支援に関わっている八幡さんのお話を聞きました。心に残ったことは、私たちは地域で暮らすことは、当たり前のように思っていますが、東北地方の障害者は入所や家族介護が当り前で、それゆえ安否確認やニーズの把握が非常に難しいということです。

関西方面は自立生活運動の盛んなところですから、阪神淡路の時とはまた異なった支援をしなければならぬでしょう。障害当事者も現地に入って支援をしているそうですから、この大災害をきっかけにして、東北方面でも地域で暮らしていける仕組みづくりが少しでも進めばと思っています。

講演の中で、八幡さんがおっしゃっていた平成二〇年厚労省



が出した「福祉避難所設置・運営に関するガイドライン」について調べてみました。残念ながら、さいたま市にはガイドラインに沿った避難所はないとのことでした。バリアフリーの進んでいない公民館や学校ではなく、こうした福祉避難所の設置と、当事者参加の地域での防災訓練、私たちが協力しながら進めていきたいものです。

イベント

芸能活動で社会参加を

小槌会 中村 光孝

小槌会は、和太鼓や獅子舞といった芸能活動を通して障害者



楽しかった山口大会。金メダルいっぱいの選手たち

の社会参加を進めるグループです。与野市手をつなぐ親の会青年学級を発祥とし、この約二十年間毎週欠かさず練習を積み重ね今日に至りました。

当初、知的障害の養護学校高等部に在籍していたメンバーも今は市内の障害者事業所に通い地域社会の一員として頑張っています。

日中の仕事を終えてからの練習は大変ですが、今年は今回の市民のつどいも含め7回の演奏

活動が出来ました。これもメンバーの変わらぬ情熱と、それを支える皆様の力だと思えます。

今回は八丈島太鼓、獅子舞、秩父屋台囃子を演舞しました。

緊張と意気込みの中、たくさんの皆様を観て頂く事でメンバーが成長するのを再確認出来た良い機会だったと思います。

重い障害があっても、和太鼓や獅子舞という芸能活動で社会参加が実現できる。その思いを込めて今後も活動に励みたいと

思っています。



みんなで楽しめる コーラスを届けたい

コール・ダ・カーポ

今回縁あって初めての参加となりましたが打合せ準備等から心配りを頂きありがとうございます。当日は、多くの皆さんが集う盛大な会に少々緊張もしましたが、出番前のわずかな時間での音響マイク、舞台の立ち位置など本格的な担当の方の指導があり、安心して演奏する

ことができました。

また、何より本番の際に会場の皆さんが、熱心に私たちの歌に聞き入って下さった事に感謝です。「さんぽ」などご存知の曲では、手話を交えて楽しく全身でリズムに合わせて歌ってくださいましたね。舞台の私たちが、笑顔になるくらい嬉しかったです。これまでで経験したことのない充実感と感動を味わいました。ありがとうございました。

一同より。

「市民のついで」表彰作文

おばあちゃんの気持ち

上木崎小学校六年

小森谷魁人

ぼくのおばあちゃんは、緑内障という視力が失われていく恐ろしい病気になる、両目がほとんど見えていません。

ぼくは、おばあちゃんに会いたくて、この夏も出かけました。

久しぶりに会うおばあちゃんは、元気にぼくの身の回りの世話をしようとはりきるのですが、ほとんど見えていな目には、限界があり、夜に

なるとおばあちゃんの目は、真っ赤になってしまいます。

ぼくは、そんなおばあちゃんに

「なにかぼくにできることがあったら、えんりょなく言ってよ。」

と声をかけると、おばあちゃんは、「この世の中の人が、みんな、あなたのような気持ちでいてくれたらね。」とつぶやくのを聞いて、ぼくは、ハッとした。

今、ぼくは、目が見えなくて困っているおばあちゃんだからこそ、声をかけ、手伝おう、助けよう、支えようという気持ちになるが、街や駅で、身体が不自由で車いすを使って

歩いている人が困っていても、何も気にとめずに通り過ぎていました。

しかし、これからは、おばあちゃんを想う気持ちと同じように、街や駅で身体の不自由な人が困っていたら勇気を出して

「大丈夫ですか」

「何かお手伝いしましょうか。」
と言える自分になりたいです。

そして、おばあちゃんが言っていた「この世の中の人が、みんな、あなたのような気持ちでいてくれたらね。」という言葉には、人を愛して、大切に想えばこそ、心からその人を助けよう、支えようという気持ち

生まれてくるのだよと教えてくれていたような気がしました。友だちも身体が不自由な人たちに、何かできることがあったらと思ってくれたら、それはとてもうれしいです。

最後に、人を愛して大切に想う気持ちが助け合おう、支え合おうという気持ちにつながり、世界中の人たちに広がっていったら、きっとおばあちゃんも、そして、身体が不自由な人々も暮らしやすい社会になるだろう。ぼくはこんな気持ちになれたのもおばあちゃんのおかげです。

おばあちゃん、ありがとう。

どぎわつた体験コーナー

■手話講座

「障害者週間」市民のつどいではさいたま市聴覚障害者協会が手話講座を実施しています。

内容は「あいさつ」「自己紹介」など簡単なもので、たくさんの方々に体験していただきました。

短時間でしたが、体験することで手話に興味を持つきっかけになってほしいと思います。

手話を通して、聴覚障害についての正しい理解が市民全体に広がってほしいと思っています。
牧野 悦子

絵手紙講師 早坂正実さん作品



■絵手紙



絵手紙とは
絵のある手紙のこと
へたでいい へたがいい
下がきなしの本番！
感じたこと 見たことを
自由にかければよい
必ず ポストへ

担当 渡邊シヅ子

■似顔絵



今年も大盛況だった、あらいた朗先生の似顔絵コーナー。昨年は時間切れで、残念ながら描いてもらい損ねてしまったので今回は早々に申し込みました。ただ黙って先生の前に座っているのは、何とも照れくさい時間ではありましたが、僅か数分の間に先生の筆先から、白い色紙の上に見慣れた顔が浮かび上がってきました。ずいぶんと若く描いて下さっているのので、増々照れくさくなってしまいました。が、どこかなつかしい顔がそこにあり、思わず笑みが溢れ



■幻聴幻覚体験

ヤンセン・ファーマーさんの協力で今年も実現したこの体験。来年もできるかな。

てしまいました。おそらく、描いて頂いた全ての方が、こんな風にうれしい気持ちでいっぱいになった事でしょう。
家に帰って家族に見せたところ、案の定「若過ぎでしょう」と言われてしまいました。が、そんな事などは無視して、大切にこっそりと飾っておこうと思っています。
会澤 葉子

団体展示

メイン会場の後ろの壁いっぱい張ってあるのは加盟障害者団体のアピールです。一位、二位の格付けではなく、心をひかれる作品にはご褒美をと考えました。

今年の受賞は「ダウン症児親の会コスモス」「ウイーズ」「市民の会」でした。ご褒美はパウンドケーキ2本ずつです。

元気いっぱい活動

この度は私たちコスモスのポスターが皆さまの目にとまり、こんなすてきな賞をいただきまして、ありがとうございます。コスモスというダウン症児を



育てる会のこと、かわいい子どもたちの笑顔、そしてこんなに元気に過ごしている姿を、世の中の人に知ってほしいとの願いを込めて作りしました。

これからもコスモスの子どもたちの笑顔が増えるよう活動していきたいと思っております。

さいたまダウン症連絡会

コスモス 池田 美穂

物品販売

一か月前から準備を進め、今年はずり場のシユミレーションまでして、これで万全！と臨みましたが、昼時にずらっと続くお客様の列、次から次の何個ものご注文に嬉しすぎて悲鳴も

出ないような有難さでした。だいぶお待たせしてしまい、お客様から厳しくも温かいご指導を頂いたり、交互に休憩をとって可愛い手芸品や美味しい物を見て回るなど盛りだくさんな一日となりました。



このひつまみ出店を通して、ふあくとりーメンバーは結束を強め、働く意識を見直す機会を頂いています。どうかこの集いが、ますます盛会となりますように！

ふあくとりーもくせい

小澤奈津子

今年の物品販売は、多くの方に会場に来ていただくために、式典とイベントが終了する十二時からと決まりました。

例年時間前から、お客さんがみにきてくれたりしていましたが、「販売は十二時からです。

すみません」とお願いしました。販売時間になると、食事を求めて行列ができ、となりの売場の私たちのテーブルに近よることもできない状態になってしまいました。一時をすぎてやっと行列も短くなり、お腹を満たしたお客さんがポツポツとおみえになりました。

ビーズも定着し、リピーターも増え売上は例年通りでした。

しかしゆっくり手にとって見ていただけなかったのがとても残念でした。

さいたま市手をつなぐ育成会

阿久津奉子



「一年後またおなじ」を担うつまじゅり

「市民のつどい」を担うつ

さいたま市障害福祉課 大久保貴至



人気もののヌウと握手！ みんな笑顔いっぱい

初めてこのイベントを担当した去年は、落ち着きがなくあちこち走り回っているうちに、あつという間に終わってしまいました。

今年は、昨年の反省を踏まえ対策を講じ、準備をしてきたつもりでしたが、やはり不安はつきませんでした。今年の後輩にメインを託して自分はフラットに、全体の状況を見渡せる立場にしようと思っていました。今年も充実した疲労感を感じたいと思います。

今年も総合同会を担当することになり、ステージに一番近い特等席で式典とイベントを観ることができました。昨年の反省から「市民のつどい」全体を通して丁寧な時間配分を行いました。ひとつひとつの内容をチェックして時間を計算し、催し物の間も来場者が席を立たないような工夫もされるなど、みんなの

特等席の観客として

司会担当 宮部 幸子

主催者として手前味噌の評価をしてはいけないと思いつつも、来場者の多くの方々が笑顔で帰っていく姿を見て、楽しんでいただけたのかな、という思いと、心地よい疲労感を感じながら会場を後にしました。

知恵が集まった「市民のつどい」となりました。ステージと時計を交互に見ながら緊張の連続でしたが、回を重ねるごとに来場者が増えていくことを実感しています。作文朗読に涙を流しスポーツ大会報告に拍手を送り、プラスバンド演奏に笑顔を見せてくださる客席の表情を間近に見ながら、継続して開催することの大切さを感じました。来年も充実した疲労感を感じたいと思います。

大限の効果。「来場者数」や「満足度」もさることながら、このイベントの開催趣旨と意義にどれだけ近づけたのかを改めて見詰め直さなければいけません。今年も充実した疲労感を感じながら会場を後にしました。アンケートや反省会ではたくさんの方の参考になるご意見を頂きました。限られた人手、予算、会場設備の中で求められる、最

市民としてみんなで手をつなぐ企画を

今年度の「市民のつどい」の準備は実行委員会が開催される大分前から始まりました。会場の外がいつものままで、中で何をやっているのか分からないという声に答えて、幟旗を作ろうということになったからです。障害福祉課の協力もあって、市のキャラクターのヌウのついた幟旗が会場の周囲に二十本ほど立てられました。

年々参加の方々が増えていますが、今年は五百人を超える来場者があり、催し物として定着してきたような気がします。

障害のある人も共に暮らす：という「ノーマライゼーション条例」が施行されている市としては、もっともっとアピール性のある催しとしなければならぬのではないかと思っ

ています。常に障害のある人とともに生き、悲しみ、喜び、悩みながら

暮らしている私たち障害者団体は、この条例の施行を喜ぶとともに、どれだけ一般市民の方たち浸透していくかが課題であると感じています。だからこそこうした催しの持つ意味は大きいのではないのでしょうか。来年もまた、みんなで手をつないで、いつの間にか境目が見えなくなる地域社会を目指したいと思っ

実行委員長 浅輪田鶴子

アンケート集計から

(回答者 46名)

今回の催しについて

楽しかった	42	楽しくなかった	1
どちらとも言えない	1	無回答	2

印象に残ったものは

作文表彰	17	スポーツ大会報告	13
基調講演	13	大宮南中吹奏楽	18
小槌会/和太鼓	17	団体展示	10
授産製品等販売・模擬店	12		

ご意見

- みんなで集う場は楽しく、他の障害の方と交流ができる
- 自然な形で障害者と障害のない人が交流できる。この機会を大切に続けていけるように
- 理解を深めるために、共に楽しむために
- 一年に一度でも、生き方そのものを反省するよい機会だと思いました
- 初めて参加して、とてもよかったです
- 作文表彰や大宮南中学校など、若者に障害者を正しく理解するきっかけになってほしい
- 団体展示の表彰の発想がよかった。活動も広がっていくのでは
- 物品販売の時間が短かった
- イベントが分かりにくい。一般の人に知らせてもっと参加を！
- 一般の人の参加が少なかったのが残念。
- 「市民のつどい」という名前は地味なので、サブタイトルが必要かなと思います
- これからも継続してください

平成23年度「障害者週間」市民の集い プログラム

◎大ルーム (午前10時30分から午後2時30分)

式典

- 主催者挨拶
- 心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター表彰式
- 第11回全国障害者スポーツ大会結果報告会

イベント

基調講演 午前11時15分～

「東日本大震災から9ヶ月

～私たちがしてきたこととこれから」

八幡 隆司 氏 (NPO 法人ゆめ風基金)

音楽芸能 午後1時～

- 吹奏楽 さいたま市立大宮南中学校
- コーラス コール・ダ・カーポ
- 和太鼓 小槌会

◎その他

- 障害・難病者作品展示
- 幻聴・幻覚体験 手話講座 絵手紙 似顔絵コーナー
- 授産自主製品等販売・模擬店
- 障害・難病者団体紹介展示

生きることは

楽しむことは

埼玉県筋ジストロフィー協会
さいたま市支部 猪瀬 剛

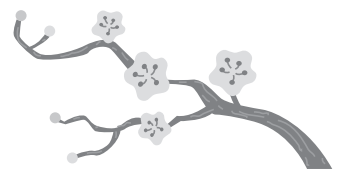
私は進行性筋ジストロフィーという、遺伝子の異常によって全身の筋肉が衰えていく病です。症状は個々に異なりますが十代で車イス生活になり、二十代で呼吸器を付け、三十代で寝たきり生活となり、四十歳前後で亡くなると言われています。

幼少期は病気がどんなものか知らず不安でした。健常である同級生を見て羨ましく思い、母親に「なぜ私を産んだのか」き

つく当ることもありました。病気の悪化のため、十四歳で親元を離れ、国立東埼玉病院に入所し、蓮田養護学校に通いました。そして二十四歳の時に一大決心をし、さいたま市にて独り暮らしを始め、「自分で選択して生きる」という事が出来るようになったのです。

でもすべてが順調だったわけではなく、多くの失敗から自信を無くし人間関係がうまくいかず苦しい時もありましたが、人には恵まれていたので、海外・国内旅行、異性と過ごすなど様々な経験ができ、今があります。現在はNPO法人の団体で講演活動や権利擁護活動をしてい

ます。その傍ら筋ジスト協会の活動にも参加し、私なりに充実した生活を送っています。こういった活動が出来



るのも、私だけの力ではなく、行政や関係団体の皆様や、日々生活を助けてくれる気さくな介助者の皆さんのおかげであり、大変感謝しています。今後は電動車いすに乗れなくなり、寝たきりになり、呼吸することが困難になり、気管切開をして、吸引等の医療介助が必要になってきます。でもせっかく生きていくなら、人生楽しまなきやもつたいないと思います。

いつか訪れる最期の日には「これまでの人生は良かった」「生まれてきて良かった」と自分に関わってくれた人に感謝し、明るく楽しく笑って最期を迎えたい。目標は五十歳まで、このさいたま市で。

事務局だより

母の法要の為に実家に帰りました。誰もいない実家は、より一層、寂しさを募らせるものでした。母を思い出すと「おかげさまで」という言葉を思い出します。亡くなる少し前から「おかげさまで」と口癖になっていた母でした。些細なことでも「おかげさま」という母が不思議でした。私は意味では理解してはいても、使った事もあまりないように思います。でも、最近になって、ほんの少しだけ解った気がします。漢字で書く「御蔭様」自分が気づいていない感謝するべき相手がたくさんいる事を感じます。蔭について自分が生かされている事への感謝の言葉なのだと感じます。私は「御蔭様」という言葉を使うにはまだ早いかもしれませんが自然にその言葉を発せられる人になりたいです。(M)

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

1-11-11

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.satama-planet.com/

e-mail satamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 浅輪 田鶴子

リレートーク

わたしはわたし



●猪瀬剛さんプロフィール●

昭和51年11月30日生まれ

進行性筋ジストロフィーによって障害者となり、10年の病院生活後、介助者の力を借りて独り暮らしをしている。趣味サッカー観戦、食べること、旅行。